

**この葉色ではイネが危ない！
一葉の色でイネの健康を診断できるー**

農業試験場

イネいもち病は水稻栽培の中で最も警戒しなければならない病気です。いもち病に罹ると葉は枯れ込み、穂は満実に実りません。肥料が多く稲の葉色が濃くなるといもち病に罹りやすくなります。畑から水田に戻す場合、有機質肥料を用いた場合、夏季高温の影響で土中の窒素分が増加する場合など、時として思わぬ多肥条件になることがあります。篤農家や経験豊富な指導員は、稲の葉色を見て、「こんなに色が濃いといもち病にやられる」と追肥方法などを指導してきました。

いもち病への罹りやすさを簡単に知ることが出来れば、経験が少ない初心者でもいもち病に対する準備が出来るようになります。そこで簡易な「葉色カラースケール」(写真1)を用いた、「いもち病への罹りやすさの目安」を作成しました。

カラースケール値では3.5~4.0を境に葉色が濃くなるといもち病に罹りやすくなります(図1)。ポット試験(写真2)の結果も、現地ほ場(写真3)でも、同じ傾向が認められました。「コシヒカリ」に続き、本年は「あきたこまち」での目安を作成する予定です。

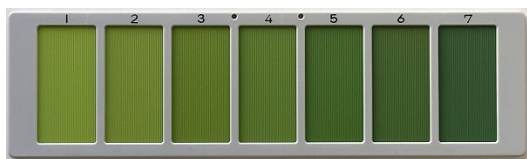


写真1 簡易な葉色カラースケール



写真2 施肥量によって葉色を変えた稲

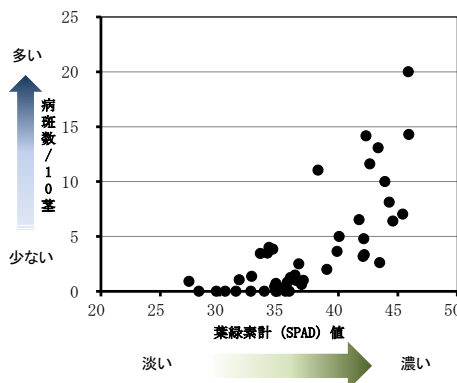
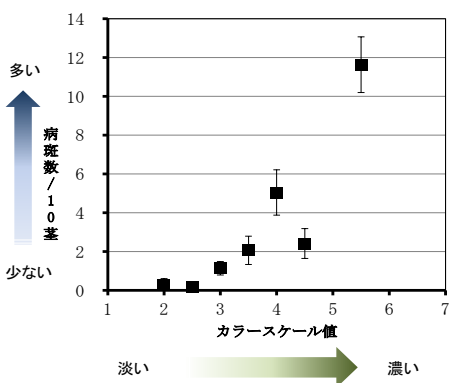


図1 葉色と葉いもちの発生の関係

担当者	中島 宏和	電話番号	026-246-2411
-----	-------	------	--------------

[試験場だより・知って納得情報へ](#)

[農業試験場ホームページへ](#)